

## (5) 昭和・津田地域

徳島市東端に位置する当地域は、新町川、園瀬川及び勝浦川が合流する河口域にあたり、東端は紀伊水道に面しています。

当地域は、これらの河川に由来する三角州や砂州、埋立地で構成された平地で、住宅地や商業地が大半を占め、市街地を形成しています。

また、海岸には、埋め立てにより木材団地が造成され、木材の加工生産や流通の中心となっています。

一方、当地の中央部にある津田山や、かつての津田海岸の面影を残す松並木のある津田公園は、市街地内に存在する貴重な緑地として保全されています。

園瀬川などの河口域には、沿岸からマハゼ、スズキ、キチヌをはじめ、多くの汽水・海水性の魚類が侵入しています。また、貯木場がある海岸では、群で生活するウミネコやユリカモメなどの鳥類がみられます。一方、津田山はアカマツ林からコナラ林へ遷移しており、津田公園や街路樹を含む樹林には、市街地の環境に適応したアブラゼミなどのセミの仲間がみられます。



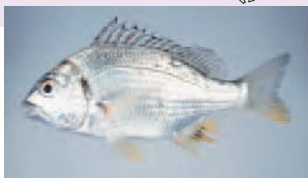
1 園瀬川河口



2 河口域の泥底に生息するマハゼ



3 河口域の中層を遊泳するスズキ



4 汽水域に進入してくるキチヌ



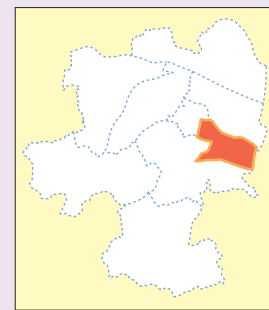
5 独立丘の津田山



7 津田海岸の面影を残す松並木（クロマツ）



6 コナラ林



8 街路樹から雑木林に広く生息するアブラゼミ



9 街路樹から雑木林に広く生息するニイノゼミ



10 木材団地の貯木場



11 海岸や河口に生息するウミネコ